

久留米大学を受診した患者さんへ

「離断性骨軟骨炎における関節変形と炎症性サイトカインの関連性」の研究に使用する試料（資料）について

この研究では、慶友整形外科病院を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の試料を使用します。

- 1) 期間： 2014年 4月から 2015年 1月
- 2) 受診科：整形外科
- 3) 対象疾患名：上腕骨小頭離断性骨軟骨炎
- 4) 使用する試料：術中採取した滑膜

あなたの資料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大 整形外科学講座
研究代表者：助教 胤末 亮
研究分担者：助教 光井 康博
研究分担者：准教授 後藤 昌史
研究分担者：教授 志波 直人

2) 研究の意義と目的：上腕骨小頭離断性骨軟骨炎（以下OCD）についての治療内容、治療成績については報告、研究は多くみられるが、OCDの病態生理についてはいまだに解明されていない。OCDの症例によっては関節変形が急速に進行し関節可動域制限を招き日常生活に支障をきたすこともあり、OCDの関節変化と炎症性サイトカインとの関連性を研究することで、OCDの病態解明につながり、予防方法の確立、予後予測ができるようになる可能性が

ある。本研究の目的はOCDの関節変形進行の病態を解明すること（炎症性サイトカインとの関連性を証明すること）である。

2) 研究の方法：

2014年 4月から 2015年 1月までに慶友整形外科病院にて OCDに対して手術加療を行った患者に対して後ろ向きに関節変形と炎症性サイトカインとの関連性を研究するものである。手術の際に採取した滑膜をリアルタイムPCR、ウェスタンブロッティング、ELISA法、免疫染色を行い、炎症性蛋白を評価。後ろ向きに炎症性蛋白が関節変形の有無に影響を及ぼしているかを評価行う。統計学的解析は、 χ^2 分析、多変量解析で行ない、危険率5%未満を有意差ありとする。

4) 研究期間：平成27年2月倫理委員会承認後～
平成27年3月～平成29年3月

5) 上記の試料の使用を選定した理由：炎症の影響をうけていると思われる組織と判断し選定。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について： 連結可能匿名化

7) 研究成果の発表の方法：学会報告、医学雑誌への投稿

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

代表者氏名：胤末 亮 久留米大学整形外科学講座

住所：830-0011 福岡県久留米市旭町 67

TEL : 0942-31-7568

FAX : 0942-35-0709

研究番号 14244